

## 第5 夜間における景観の形成に関する方針

夜間の景観は、照明<sup>※1</sup>により引き出された、昼間の景観とはまた違った東京の魅力である。高層ビルなどの高所から望む夜間の景観は、世界最大の都市圏の中心地として、他には類のない規模の市街地の広がりや高層ビル群などのダイナミックで活力ある姿を見せている。

また、皇居周辺の風格や品格、臨海部や隅田川などの水辺のきらめき、浅草周辺などの歴史情緒、歌舞伎町や渋谷のスクランブル交差点などのにぎわいや活気など、地域ごとに多様な夜の表情を見せる点も、東京の夜間景観の魅力となっている。都市再生が進み、高層ビルを含む大規模開発により、新たな夜景スポットが生まれている。

一方で、各施設の照明が個別に計画されているため、不快なまぶしさや必要な範囲以外への漏れ光などによる光害の発生、エネルギーの浪費などの課題も抱えている。

夜間照明については、交通安全や防犯という機能の確保はもとより、快適な光環境の形成や省エネルギー、省資源化といった環境への配慮も必要である。施設ごとに明るさを競うのではなく、空間に応じて真に必要な光の量を検討し、全体としてのエネルギーを抑えながら照明の効果を高め、光の質を向上させていくことが重要である。

近年、LEDをはじめとした照明技術の進歩に加え、プロジェクションマッピングなどの演出方法の多様化も進み、季節や時間帯に合わせた演出やイベントでの演出も容易にできるようになってきた。これらは、季節感やにぎわいを演出する効果がある一方で、使い方によっては広域に及ぶ光害の発生や更なるエネルギーの浪費をもたらすおそれもあるため、活用にあたっては地区特性を踏まえるとともに、周辺への影響等に十分配慮する必要がある。

また、東日本大震災における教訓を踏まえ、非常時の適切な避難誘導や節電に対応できる照明計画を、あらかじめ検討していくことも重要である。

多様な地域が共存し、連担する東京ならではの夜間景観と、良質な光の誘導を図るため、夜間における景観の形成に関する方針を以下に示し、東京の魅力を更に高めるよう取り組んでいく。<sup>※2</sup>

### 夜間の景観形成方針

#### 1 ダイナミックな都市構造を光で表現

都市活動の象徴でもある高層ビルが集積した拠点や主要な道路、河川、運河等の都市基盤施設が示す東京のダイナミックな都市構造を、光の明るさ、強さ、色等によってヒエラルキーを付けて表出させる。

品格や落ち着きを持った明るさを抑制すべき地区、夜のにぎわいや活気を演出する地区など、土地利用の特性に応じた照明により、都市全体の夜間景観にメリハリを付ける。

※1 照明には、道路照明など安全性確保のために必要な機能的な照明から、ライトアップやイルミネーション、プロジェクションマッピングなど屋外空間を光で演出するための照明までを含む。

※2 夜間の景観形成の実現にあたっては、当該方針に基づき、届出制度、大規模建築物等の事前協議制度、「公共施設等のライトアップ基本方針」(平成30年3月策定)等の各種施策や事業、各区市町村や事業者等と連携し推進していく。



ダイナミックな都市構造のイメージ

## 2 地域の個性を生かした夜間景観の形成

東京は、市街地、田園地帯、海辺、丘陵地、山地、島しょ等の多様な景観特性を持った地域で構成されている。江戸から現代に至るまでの長い歴史の中において形成されてきた各地域は、その形成時期により景観特性も異なる。景観特性に応じた照明により、地域の個性を生かしていく。

また、静止した視点だけでなく移動する視点も意識し、個性ある地域の夜景を回遊して楽しめるよう、区市町村や事業者等と連携し、光を点から線、面へと広げ、地域全体で連続性のある夜間景観を形成する。

- (点) 東京の歴史や文化を伝える歴史的建造物や水辺、緑など、地域の景観資源について、特性を踏まえた光で演出
- (線) ランドマークへとつながる主要な道路や河川や運河などについて、軸としての光を演出
- (面) ランドマークや動線を含む広がりのあるエリアにおいて、光のヒエラルキーを作り、一体感や地域の個性を創出

以下、主な地域ごとに夜間の景観形成方針を記載する。

### ① 風格のある都心

- ・ 首都にふさわしい風格を光で演出する。
- ・ 東京の玄関口である東京駅丸の内駅前広場や行幸通りなどの公共空間と周囲の建築物の相互関係を考慮し、機能的な明るさは確保しつつ、全体では光を抑え、一体感や連続性を持たせる。

- ・ 皇居周辺では、豊かな自然環境や生態系に配慮し、皇居の森やお濠<sup>ほり</sup>の暗さを生かした美しく落ち着いた印象的な夜間景観を形成する。
- ② 個性豊かな拠点
- ・ 夜間の都市活動にに応じて、中核的な拠点では、東京の活力、にぎわい、夜の文化を発信する光、地域の拠点では、駅等を中心とした界隈性や生活を支える活気ある光で演出する。
  - ・ 華やかさやにぎわいなど、地域の個性を面的な連続性や一体感のある光で演出し、回遊して楽しめる夜間景観を形成する。
  - ・ けばけばしい広告照明など不快な光(グレア)を適切に抑制し、光の質を高め、快適なナイトライフ観光を促進する。
  - ・ 拠点ごとに明るさや照明の在り方を定めるなど、区市町村や事業者等と連携し、地域特性を生かした夜間の景観形成に向けた取組を促進する。
- ③ 歴史的・文化的資源の保全・活用
- ・ 都市の発展とともに築かれてきた歴史的・文化的な地域の景観資源について、夜間でも存在感を感じられるよう、その特徴を光で演出する。
  - ・ 主役を引き立たせるため、ライトアップされた景観資源の周辺や背景では明るさを抑制し、照明の効果を高める。
  - ・ 地域のまちづくりと連携し、ライトアップされた景観資源と調和した回遊できる歩行者動線を整備し、観光資源としての活用を促進する。
- ④ 幹線道路沿道における風格のある街並み
- ・ 幹線道路は、機能的な明るさを確保した上で、都市軸として連続性のある夜間景観を形成する。
  - ・ 沿道建築物は、道路照明との相互関係に配慮し、道路空間と一体となった夜間景観を形成する。
  - ・ 屋外広告物については、周辺環境に十分配慮し、過度な照明は避ける。
- ⑤ 水辺を生かした魅力的な都市空間
- ・ 東京湾に面する臨海部や運河沿いでは、水面への映り込みを考慮した美しいきらめきを光で演出する。
  - ・ 水上バスの航路や対岸などからの眺望も意識し、水際に光を連続させるなど、水辺の夜間景観を向上させる。
  - ・ 地域のランドマークとなる橋りょう等のライトアップにより、水辺の魅力を向上する。
  - ・ エリアごとに明るさや照明の在り方を定めるなど、区市町村や事業者等と連携し、水辺の特性を生かした夜間の景観形成に向けた取組を促進する。
- ⑥ 落ち着いたある良好な住環境
- ・ 夜間における安全性・安心感を確保した照明環境を整備する。
  - ・ 過度な明るさや暗がり排除し、暖かみのある質の高い光により、落ち着いた感じることのできる快適な住環境を形成する。
  - ・ 住宅地の中に残されている農地や屋敷林などの武蔵野原風景、丘陵地や崖線<sup>がい</sup>などの自然との調和にも配慮する。

### ⑦ 渓谷など自然美の保全

- ・ 奥多摩の豊かな自然環境による暗闇を保全し、夜の静けさを感じられる照明環境を整備する。
- ・ 美しい星空を楽しめるよう、上空への漏れ光などの光害のない照明とする。
- ・ 生態系及び環境に配慮した照明とする。

### ⑧ 豊かな自然を生かした伊豆諸島

- ・ 良好な自然環境や生態系に配慮し、自然環境への負荷を軽減する。
- ・ 美しい星空を楽しめるよう、上空への漏れ光などの光害のない照明とする。
- ・ 島の玄関口となる港周辺や観光スポットでは、来訪者を迎え入れる空間を光で演出する。

## 3 光の質の向上

単純に光の量を増やすのではなく、周辺環境との調和に配慮した照明により、光の質を向上させ、快適に過ごせるまちをつくる。

まぶしく不快な光（グレア）を抑制するため、照度は確保しながら輝度を抑え、光害を生じさせない照明を増やしていく。

地域の個性に応じた適切な色温度の設定や演色性に配慮し、照明の目的や空間の特性に応じた適切な器具を使用する。

適光適所の考え方にに基づき、光と影を効果的に使ったメリハリのある演出により、陰影に富んだ、印象に残る夜間景観を創出する。

鉛直面の明るさも効果的に活用し、全体としては光を抑えることで、照明の効果を際立たせつつ、照明によるエネルギーの削減を図る。

より少ないエネルギーでより高い効果を発揮する省エネルギー器具の採用や再生可能エネルギーの活用を促し、環境に配慮した照明とする。